

リビングがいつでも子どものアトリエに

自分の描いた絵がテレビ画面で動き出したら？

お絵描きを通じた親子のコミュニケーションは、リビングから広がります。

文：石井美智子 / text by michiko ishii

写真：藤田慎一郎 / photograph by shin-ichiro fujita



さあ、次は何を 描こうかな？

「この絵が動いたら、もっと楽しいのになぁ」と、自信满满に描いた恐竜やお姫様の絵を見ながら、キャラクターが動く様子の中のでイメージしていた幼少時代。それがもはや夢ではないとしたら…？ 来年創業50周年を迎える玩具メーカー「エポック社」が発売した「ドラえもん うごく! おえかき」は、自分で描いた絵が、テレビ画面上でぐんぐんと動き出す新感覚の知育玩具です。

ペンが持ちやすいとされる60度に設計された光学式ペンマウスと、テレビから延ばしたAVケーブルを本体につなぐだけで準備は完了。体験してくれたのは、板橋区の三輪里美さんと豪騎くん親子です。のりものや動物

など約50種ものアイテムから「たこ」を選んだ豪騎くんは、紙に絵を描くのと同じように、マウスパッドの上でペンマウスをすいすいと操っていきます。横にいるママと「たこの足は何本かな？」と、描く楽しさを体感しながら親子のコミュニケーションを深めていきます。「できた!」と誇らげな笑みをたたえる豪騎くんの視線の先には、コントローラーの動作に合わせて上下左右に移動し、シューとスミを吐く自作の「たこ」が。「なんで動くんだろう?」と喜ぶ豪騎くんと一緒に、「飾ることしかできなかった絵が動くなんで!」とママもびっくりした様子です。

いつものリビングが、いつでも子どものアトリエに。傑作や思い出の絵を60枚まで保存できるので、休日は家族や友達を集めて鑑賞会やお絵描き大会で盛り上がりそうです。

「うごく! おえかき」の他にも、親子で楽しめるコンテンツが充実。

1. 子どもが描くキャラクターで、お父さんが描く敵のキャラクターを倒すことも。他にレーシングカーゲームやクレーンゲームなどがある。
2. ペンマウス操作になれていない状態でも楽しめるファーストステップ。お母さんや友達とどちらが早く色を塗れるか競争しよう!
3. ひらがな、カタカナ、記号をお手本に習って練習。まずは名前を書いてみよう。



ドラえもん うごく! おえかき

正しいペンの持ち方で運筆力を高め、色彩感覚を養うとともに、想像力や発想力を刺激する幼児知育玩具「テレビであそぼう! まなぼう!」シリーズ。多彩な18モードで親子のコミュニケーションツールとしても遊べます。1万479円。

エポック社お客様サービスセンター

☎029-862-5789 (月~金/祝日・会社特休日を除く 10:00~12:00、13:00~17:00)



HPアドレス <http://www.epoch.gr.jp/oekaki/>

©藤子プロ・小学館・テレビ朝日・シンエイ・ADK
©2007 SSD COMPANY LIMITED ©2007 EPOCH CO.,LTD PAT.P.